

地域の会

6/18 勉強会及び発電所視察概要

日 時	平成23年6月18日(土)13時30分～17時
場 所	〈勉強会〉 ・東京電力（株）柏崎刈羽原子力発電所ビジターズハウス 〈視察〉 ・ サービスホール展示視察 ・ 環境管理棟視察 ・ 電源車、消防車、ショベルカー視察 ・ 建屋止水対策視察 ・ 防潮壁、防潮堤建設予定地視察 ・ 6号機（原子炉、タービン建屋、中央操作室）視察
視察参加者	—委員— 浅賀・新野・石坂・川口・桑原・佐藤（幸）・佐藤（正）・三宮・高桑・高橋（武）・高橋（優）・武本（和）・田中・徳永・中沢・前田・・・16名 —東京電力— 長野副所長・新井副所長・西田技術担当・阿部柏崎地域GM・武田土木第二GM・小林建築第一GM・宮武地域共生総括G・山本地域共生総括G —事務局— 広報センター 井口業務執行理事 石黒主事

- 放射線の基礎や原子力発電所の概要についての勉強会及び、津波に対する緊急安全対策の状況視察を行った。後日提出された感想を以下にまとめた。

〈委員〉

今回初めて環境管理棟を見学することができ大変良い勉強になりました。環境中の放射線については、福島第一原発の事故後私たち住民にとっては、その影響について大変心配する人が多く、敏感になっている人が多く出ています。

体内に取り込まれる食品類については、定期的にサンプリングをして測定をされているようですが、その測定データの詳細については私たち住民はあまり知らない人が多いのではないのでしょうか。新潟県のデータは原子力だよりや新聞広告などで見かけますが、これらの報告はリアルタイムでは見れません。

ホームページでも掲載されているとのことですがインターネットで見ると人も少ないようです。もっと住民に簡単でわかりやすく、リアルタイムで知らせることができたら安心できるのではないかと思います。例えば、刈羽村ではケーブルテレビのミルフォでデータを流すというようなことをやれば良いのではないかと思います。

感想というより提案みたいな文面になってしまいましたが、関係者のご一考をお願い致します。末尾になりましたが、今回の視察の為ご尽力いただきました東京電力の皆様へ感謝申し上げます。

〈委員〉

不測の事態に備えて電源確保の為、特殊車両10台、注水強化の為、消防車5台、そして防潮堤、防潮壁の設置などなど、とても多くのことに取り組んでいらっしゃると思いますが、東京電力さんはこれらにかかわる莫大な金額はどこからまれてくるのでしょうか。

私は、人に優しく自然を害さない電力の供給ができるシステムの研究開発にコストをかけて、一日も早く安心して暮らせる日本にしてほしいと思いました。

〈委員〉

勉強会「原子力の仕組み」「放射線とその影響」は手際のよい説明でした。

常日頃気になっていることは‘放射線の人体への影響’です。‘放射線防護の考え方’の中で‘しきい値は無いと仮定して出来るだけ線量を低くすることで影響を少なくする’と説明がありました。放射線の影響については科学的知見が増えるにつれ低線量も無視できないことが明らかになってきています。低線量被ばくによる晩発障害が気にかかります。関連して‘飲食物摂取制限の指標値’は適切なのか不安です。例えば飲料水の放射性ヨウ素の指標値は300 Bq/kg (2011.3.17 厚生労働省報道発表) となっていますが、3月17日以前の指標値は10 Bq/kg でした。また世界保健機構 (WHO) の指標値は1 Bq/kg です。現在の‘飲食物摂取制限の指標値’を安全と信じてよいのか不安です。

発電所見学は、福島原発事故後でもあり、福島原発に当てはめながら見学をしました。お聞きしたいいくつかの津波対策は、津波の高さへの対策のように感じました。津波の強い力、そのときには地震も同時であり得ることを考えると、これらの対策で安全が確保されるのか疑問に思いました。と同時に、このような対策が必要な原発の傍で暮らすことの不安をあらためて強く感じました。

〈委員〉

サイトの中へ入ったのは何十年ぶりだろうか？セキュリティチェックは相変わらず徹底されていて安心した。それでも機動隊がいることに不自然さを感じた。

あつという間の半日であり、もう少し時間のゆとりが欲しかった。(それぞれの場所で、皆さんもっと質問したかったように見えた)

また、せっかくの機会だから、今後はぜひ定期点検(検査)中の様子を見てみたい。「とりあえず」の緊急対策(電源車や消防車)について確認できたが、夜間や冬期を考えたハード面の整備も必要と思った。

〈委員〉

東京ドーム90ヶ分の広い緑豊かな敷地に柏崎刈羽原子力発電所が位置している。構内バスから小さな池のほとりに東屋があり素晴らしい景観、公園だった。美しい自然に囲まれた発電所を福島第一発電所の二の舞にしてほ

しくない思いです。

津波による電源と燃料及び使用済み燃料を冷却する機能が失われた場合の安全対策として、電源車や消防車の配備が整っている説明を受けた。ナンバープレートが札幌や相模と他県のままだったが構内だけの専用車両だから必要ないとのこと。防潮壁、防潮堤まで歩こう会でしたが発電所を地震、津波から万全を尽そうとしていることが伺えた。

準備万端で安堵感はあるけれどもそれぞれの車両を使うことの無いように祈るばかりです。強固な防護服も完備されている由、福島第一で頑張っている作業員にも支給してほしい。

東北電力へ繋がる電線は需給するだけの配線とお聞きしました。関東の電力不足の際に配給してもらおうためと考えられますが将来は双方向からの供給、需給の融通が望まれます。一考をお願いします。

〈委員〉

放射性物質に関する勉強をさせて頂いたが、一度や二度では理解は難しく、いろいろな方から度重なる指導を頂くことを続けるべきだと思った。

緊急対応の現実は、とりあえずとは言え、経済的にも物理的にも大変なエネルギーを要することだと思う。福島を検証内容をより多くの人々が共有し、互いに納得できるような根本対策がとられるようにしていくべきだと改めて感じた。

発電所には久しぶりで入らせて頂いたが、定期的に見せて頂きながらのコミュニケーションも大切にしていきたいと思う。

〈委員〉

新しい委員の方々をむかえての勉強会ということで開催されたが、3.11東北地方太平洋沖地震で大きな被害を受けて3カ月、原発事故の収束のめどさえ立たない中での発電所視察が行われた。当然のことながら東京電力は、緊急安全対策をアピールすることが目的だったと思う。

事故後の4月中旬に発表された当時から、今も懐疑的な思いは変わらない。それは電源車や消防車などの配備や、浸水対策、防潮壁や防潮堤の建設という対症療法的対策では安全評価の尺度が無く、実施する根拠も不明確だと思う。

3.11 原発事故の全体像が明らかにされていない中で、緊急安全対策と言われても安全と安心が確保されたとはいえない。中でも防潮堤にいたっては半年後、一年後に完成するものではなく遠い先のこと。また、どの程度津波に耐えるのかも不明である。国や県、柏崎市刈羽村は、防災計画にまったく手をつけていない。このまま運転再開されたら、住民はまったく無防備のまま置かれることになる。防災計画は運転開始の前提条件でもあった。

現在停止している2、3、4号機の早期運転再開と、今後定期点検となる号機が速やかな再稼働できるようにと狙いが込められているものと思うが、住民は素直な気持ちで受け入れることは出来ない。

福島第一原発事故から後10日ほどで4カ月むかえる。福島県内の放射能汚染は拡大の一方である。原発構内よりも福島県内で人が日常生活している所の方が放射線レベルの高いところが広範囲にわたっているのである。柏崎刈羽を含めて住民の意識はそんなに変わらないと思う。それは、「もしか

したら福島現地と同じことがこの柏崎刈羽でも」という思である。そんなことは絶対ないという保障処置と受け止めることは出来ない。

それが今回の緊急安全対策で、これで万全だというのはあまりにも住民の心を理解していないことにはならないだろうか。

〈委員〉

新しく委員となって初めての勉強会に参加しました。

基本的な事ながらよく理解していなかった内容を知る事ができ、出席してよかったと感じています。

- ・放射線に関する単位の理解
- ・原子力発電と原子爆弾の違い
- ・急性の放射線影響の数値
- ・確定的影響と確率的影響

これらの内容は放射線に漠然とした不安を持っている一般住民にもっと広報すべきと感じました。

最後に、勉強会終了後の懇親会では委員さんの考え方、本音も聞く事ができ、勉強会、発電所視察と長時間でしたが有意義な一日でした。

〈委員〉

当日配布された「ニュースアトム」を見て大変驚きました。大きな活字で「柏崎刈羽原子力発電所では津波への対策を進めています。」とあります。東電の言う「緊急安全対策」は地震は想定していないことになるのか。率直な疑問です。中越沖地震の影響から柏崎刈羽原発で対策を講じてきたのは耐震補強工事と同時に行う津波対策ではなかったのか。そして、耐震補強工事は終了したのかも尚一層の疑問を感じます。

耐震補強工事とともに津波対策のことを言うこと自体は言うまでもないことなんです。配布された資料のどこを見ても「地震」という言葉が一つも出ていないことに驚くばかりです。地震対策は万全だとでもいうことなのでしょう。たしか福島第一発電所の事故は地震・津波・原発の事故で、今なお収束の展望が見えない大事故につながったわけです。

現時点で言えることの一つは、なぜかくも惨憺たる状態になったのか。その原因となるのは、原発の安全性を確保する設計の前提となる地震・津波の規模に関する想定があまりにも甘かったことによるのではないか。

また、「アトム」の「これから実施する取り組み」 2、では「さらに、津波が敷地内に侵入した場合に、安全上重要な設備が設置されている建屋内への浸水を防ぐため、防潮壁の設置や扉の水密化を行います。」とあります。福島第一発電所の敷地内は、想像を絶する破壊力を持つ津波の押し波・引き波に翻弄されたわけだ。もし、原発のすべての重要な設備・装置類が安全な浸水防止の建屋の中になったなら、原子炉も使用済み核燃料プールもかくのごときの大惨事に至らなかったかもしれない。

さて、日本の原子力安全委員会。一応「規制機関」と言われていますが、「原子力の安全に関する条約」(94年採択、95年国会で承認、96年発効)では、「規制機関」とは、原子力施設の「立地、設計、建設、試運転、運転または廃止処置を規制する」法的権限を持つ機関だときっちり定義されているのですが、この国では、そんな権限は何も与えられていなく、補助的な

政府の諮問機関程度の役割しかない。現在の原子力安全委員会の委員長の斑目さんはこの任に就く前、浜岡原発の安全性をめぐる裁判があった時、なんと電力会社側の証人として出廷し、「浜岡原発は安全だ、あなた方（原告側）のようなことを言っていたら原発などつくれませんよ」と大見えを切った。そういう人がいま原子力安全委員会の委員長という大変お粗末な体制のまま、原発を大規模に推進している国は世界でもなかなか見当たらないでしょう。

6月9日、ドイツのメルケル首相の連邦議会での演説が光っています。「・・日本の劇的な事態が世界にとっての転機であることは疑いない。私個人にとってもそうだ。・・日本のような高度な技術国ですら原子力の危険は排除できなかったことを我々はフクシマの事態から認めざるを得ない。その認識に立てば、必要な結論を引き出さねばならないし、新しい見方が必要になる。ドイツが大地震や津波に今脅かされているわけではないが、原発の安全性と放射能汚染から国民の保護を第一に置き妥協は許されない。」として、2022年までに独原発の廃絶を連立与党が合意したと全世界に発信されました。

私は、今、日本政府が原発からの撤退を決断し、将来原発をゼロにする期限を決めたプログラムをつくることを強く求めてゆきたい。

〈委員〉

ひさびさに原発構内に入った。

気になったいくつかの事項を記す。

津波防潮壁に関して

2号機3号機間を海岸に向かってあるき、防潮壁の説明を受けた。

その後、防潮壁は不要と判断したとの報道があった。

それが再度設置するに変わったが、説明を受けた位置ではない。

これでは、説明者の立場がないのではないか。

高台の送電線の開閉所？も15mに満たないので対策を講じると説明されていたが・・

二転三転する東電の発表方法や意志決定機構を問題にしなければならない。余りにも住民無視ではないか。

福島吉田所長が本社決定に「やってられない」と怒ったことが報じられているが、なんと会社なのだろうか。

実質破産状態の会社であっても、社員に人間としての良心があるならば、誠実に経過説明を求めたい。

3号機火災変圧器上の構造物

3号機の火災のあった変圧器は交換されていたが、上部の構造物は傾いたままだった。

現場では今後修理とのことだったが、最後のミーティングでは修理済みとのことだった。

構造物の写真を示して再説明を求めたい。

柏崎原発敷地は立地不適な地盤条件にあることを確信した。

4.1.1 福島浜通りの地震で、東電が活断層でないとした湯ノ岳断層が

動いた。

4. 28に保安院が各電力に照会し、5. 31報告があった。東電柏崎は、直下断層・真殿坂断層・細越断層を考慮していないと報告した。6. 6に保安院は8. 31までにそれらを評価報告するよう再指示している。耐震設計審査指針の誤りを事実が示したことになる。柏崎刈羽は1974から指摘し続けたように立地不適な地盤条件にあることが明確になった。平気で運転継続している東電や保安院を信用できない。

東京電力社員の心情はいかに

6月末になって、60km余離れた伊達市の数地区が、特定避難勧奨地点に指定され避難がなされた。

東京電力は、何万人もの住民の生活を奪っている。

この重い事実を、その会社の構成員として反省しているのだろうか。

東電の説明員の対応から、加害者組織の一員として、謝罪しているとの心情が読み取れないことは、本当に残念である。

(以下、第97回定例会資料に追記)

〈委員〉

勉強会について。何回か聞いている事柄ではあるが、今回はとてもわかり易かった。基礎的な事を繰り返し学習することは、より理解し、判断につながる事になる。又連日、震災のニュースの折に福島原発の事が目、耳に入ってくるので余計に大切な事だと実感した。先日、イタリアで国民投票が行われている。国民が自分の事として考える力を日々、養っているのだと思った。日本も、今回の状況を踏まえて、『知る事の大切さ』を周知した方が良いと思った。

サービスホールでは、以前より、一般の見学者が多く、関心が高い事が伝わってきた。